



高齢化社会への対応を考える

本年、日本人の「100歳老人」が遂に3万人を越えました。

更に今後、医学や環境の一層の進歩によっては人類の寿命は120歳まで延長できるだろうとも云われております。

勿論、長寿社会については誰も異議を挟むところではありませんが、わが国が「世界一の長寿国」であることの誇りを無視し、政治の舞台でも、報道機関でも日本の福祉政策の足らざる部分だけにスポットライトを浴びせ、もって政府批判の材料にのみこれを利用してきたきらいがあります。

定年制の延長

そこで、今月のSHINGO SCOPEではこの点について私流の考えを綴ってまいります。さて、日本人の平均寿命82.3歳はご案内の通り世界No.1であります。これは米国、韓国、77.9歳、中国の72.5歳に比べ何よりも誇るべき数値ではないでしょうか。

私が市会議員になった昭和42年当時の日本人の平均寿命は67歳でした。それから40年、私達日本人の平均寿命は実に15年も延びたのであります。このことは将に「誇るべき快挙」といふべきでありましょう。

アメリカの民間人口研究所のマウンテンビュー・リサーチ社が科学誌「ネイチャー」に発表した

予測では、2050年の日本人の平均寿命は更に伸びて、なんと90歳を越えるとの事でありませぬ。

こうした急激な高齢化社会の中にあつて、今、日本は必然的に年金問題をはじめとする老人福祉に厳しい難問が突きつけられたのであります。

しかし多額な赤字国債を抱え、同時に財政逼迫の政府には、国民の期待に容易に答えられるものではないと、だからといって「世界で最も低い消費税」に安易に手を付けることも勧めることはできません。

「大道芸」の名付け親

平成元年、市政100周年を記念して、駿府博をはじめ様々なイベントを展開、その結果6億2400万もの利益を生み出し、静岡市は内1億円を国際交流基金に、残りを本市に新たな文化を創造するための基金を設立したのであります。

「大道芸ワールド・カップ」はこの浄財をもとに実行されたのでした。

ある日、私はひとり市長室から1階下の商工部・イベント企画室に向きました。怪訝な顔で迎えた室長に「パフォーマンスの世界大会をやる、絶対うけると思うが」・・・私の言葉を聞いた職員は更に怪しい雰囲気です。「パフォーマンス

そこで私は提案しますが、「定年制」について今一度検討しては如何なものでしょうか。

一般に日本の社会においては「60歳定年」が一般的です、地方公務員や法人などの定年は殆どが60歳定年です。

先に記述したように、この40年間に15歳も平均寿命が伸びたにも拘らず、僅か5年の定年延長は些か不合理といえるでしょう。恐らく肉体的にも精神的にも「70歳」を定年の基準としても問題ないでしょうが、差し当たり「65歳」を実行すべき時代ではないかと私は考えます。



つて何ですか?」、問われて言葉に窮した私ですが「何しろ世界中には本当に面白い芸がある、是非やろう」とそのまま押し切ったのでした。

当時、「ジャグリング」と云つてもその意味を知っている者は殆どいなかった。海外旅行をした際、街頭の一角に人だかりする景色を覚えている程度でありました。

青年会議所の理事長杉山三喜男さんを長として若者中心の実行委員会を立ち上げ、運営を任せました。そんな中、「大道芸」の名称が彼等の発案として浮かび上がったのです。まさかその「大道芸」という言葉が数年の後は日本人の通常用語になっているとは驚きであります。



珠賀美神社(伝馬町)と怪力・彦四郎

伝馬町小学校の正門前に、見過ごし勝ちな小さな神社がある、恐らくJR駅へ急ぐ通勤者にも、交通量の多い角地であれば、殆ど目に入らず通り過ぎてしまうでしょうが、ここに珠賀美神社がある。

この大理石で出来た鳥居を潜ると何の変哲もないが、大きな石灯籠が建っています。

今月のSCOPEの郷土史はこの石灯籠の由来について記して参ります。

400年前、駿府華やかなりし大御所の時代、江戸相撲が地方巡業の中で駿府に立ち寄った折、この町の評判の若者・萩原彦四郎の噂を耳にした大横綱「立

川」が余興のつもりで勝負を申し入れました。

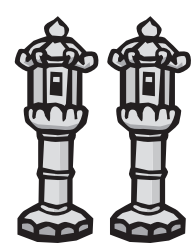
これに渋々応じた彦四郎だったが、いざ本番に際し、渾身の腕力で羽交絞めると、立川の顔色は青ざめ、何の抵抗もできませんでした。

行事は仕方なく引き分けたがその夜、立川は肋を折られていて亡くなったと言います。その時、駿府の城下に張り出された落首が「立川を横にするのが鬼彦四」でした。

それから数年後、久能山東照宮に参詣した彦四郎に、神官がこの石灯籠を駿府まで運んだら差し上げましょうと、戯れ

に云った言葉に、「それなら2基頂戴します」と云うや、矢庭に太い丸太の両端に1基、つつ縄で結び、これを肩に担いで下山、下八幡(今の伝馬町)に来た時、丸太がボキリと折れてしまったのです。

そこで彦四郎は近くにあった珠賀美神社にこれを奉納しましたが、上記の彦四郎の「怪力伝説」を裏付けるようにこの2基の灯籠には元和2年と元和3年と、夫々久能山に奉納した者の名前が記載されているのです。



一寸一言 私の雑記帳から

飛行機による

修学旅行は如何?

最近の高校生の修学旅行の行き先も、時代を反映して大きく変化してあります。

過日、私が所属する企画空港委員会の席で、委員から、来春、開港予定の富

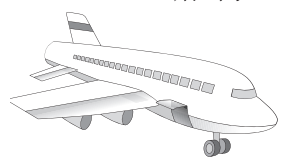
士山静岡空港の利用促進方を問われた際、当局から県内高等学校の修学旅行先を調査し、空港利用を推進する営業活動を行っている」と回答しております。

それによると県内の公立高校170校の旅行先は国内では沖縄61校、九州12校、北海道12校、海外では韓国6校、中国5校、台湾3校とのことであります。

その行き先から空港利用は大いに期

待できるところですが、現実はやはり甘いものではありませんでした。理由は先ず各高校の修学旅行の実施時期が重なってしまうこと、次にこの空港を利用する飛行機のキャパ(容量)は

200人未満の中型機でありますから、小規模高校には対応できても、殆どの高校には利用不可とのことでありました。



静岡の秋を彩る大道芸



街路樹が赤や黄色に色づく頃、静岡市は大道芸ワールドカップ一色に染まります。世界各地からやってくる大道芸人のパフォーマンスを楽しむ人々の輪は年々大きくなり、今では全国的に有名な静岡の秋の風物詩となりました。

大道芸の始まりは1992年。今から16年前のことです。最初の頃はまだ市民の認知度も低く、規模も今ほど大きくはありませんでした。市民たちは買物や通勤の途中に足を止め、見たことのない不思議な芸を眺める・・・くらい感覚でした。今では考えられないほど、ローカルなイベントとしてのスタートだったのです。

しかし、どんなに規模が大きくなり人気が高まっても、路上パフォーマンスならではの和やかさ、楽しさは変わりません。かつて大道芸を楽しんだ子どもたちが親になり、今度は子どもたちに大道芸を見せてあげる。そんな風景も見られる今日この頃です。

筆者：清水英樹

『天野進吾』の歴史講座

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。大変ありがたいことにこのSHINGO・SCOPEの郷土史が好評を頂いております。どうぞ、お気軽にお声掛けください。